

淀川右岸で昨年絶滅危惧種のミズアオイが発見されました。恐らく地中に眠っていた種子が何らかのきっかけで目覚めたのではないのでしょうか。（乙訓の自然を守る会が桂川宮前橋付近でミズアオイを99年に発見したことがあり、同じ水系の下流である淀川右岸でミズアオイが発見されたのは不思議ではないと言えます。）

しかしミズアオイは一年性の植物なので、うまいこと種子がこぼれて今年も無事に生えてくれるかどうか見守っていました。嬉しくも今年は個体数も数十株となり美しい水色の花を見ることができました。

ところがです。ある日観察しようと訪ねたら、ミズアオイは何者かによって取られていて、引き千切られたミズアオイが周辺に散乱し、見るも無残な有り様となっていました。現場に入るには大人の膝の高さ程度の雑草をかきわけかきわけ、つぎにはミズアオイの生えている“沼”には、脚のつけねまで届く位の長い長靴が必要となります。しかも取られたのは2～3本ではなく、ミズアオイに壊滅的打撃を与える程“根こそぎ”です。このことから「何者」は「業者」ではないかと思われます。

なんとか来年もミズアオイが生き残ってくれるよう、残されたミズアオイが花を咲かせ結実してくれるよう見守りたいと考えています。

そして今後このようなことが二度と起こらないようにするには、あまり好ましくはありませんが「立ち入り禁止地域」を設定し、あらかじめ許可を得た人のみが出入りできるようにするしか方法がないのではないかと思われます。私は野鳥については詳しくありませんが、野鳥についてもその保護のために同様の処置が必要となることもあるのではないのでしょうか。本件はあるいは淀川環境委員会で検討していただくのがふさわしいのかもしれませんが、あえて流域委員会にご提案する次第です。（「立ち入り禁止地域」は、見るとなさけなくなりますが、フェンスで囲み出入り口は施錠できるようにせざるを得ないのではないのでしょうか。）